

令和6年度高知市口腔保健検討会 資料

【目次】

■ 高知市口腔保健検討会設置要綱	1
■ 高知市口腔保健検討会委員名簿	2
■ 高知市口腔保健検討会 事務局・関係課名簿	3
■ 資料	
第三期高知市健康づくり計画における歯科口腔保健の取組について	4
歯科口腔保健の取組 目標値 (別添)	

高知市口腔保健検討会設置要綱を次のように定める。

平成26年12月5日

高知市長 岡崎 誠也

高知市口腔保健検討会設置要綱

(設置)

第1条 地域住民の歯科疾患の予防等による口腔の健康の保持を推進させることを目的として、地域の状況を踏まえた歯科口腔保健施策の具体策等を検討するため、高知市口腔保健検討会（以下「検討会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 検討会は、次に掲げる事項について検討を行うものとする。

- (1) 高知市口腔保健支援センターの運営に関する事項
- (2) 歯科口腔保健に関する情報提供、普及啓発、研修等に関する事項
- (3) その他歯科口腔保健の推進のために必要な事項

(組織)

第3条 検討会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、地域の保健、医療、社会福祉、労働衛生、教育その他の関係者のうちから、市長が委嘱する。

(会長及び副会長)

第4条 検討会に、会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、検討会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、委嘱の日から当該委嘱の日の属する年度の翌年度の3月31日までとする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 検討会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

(資料提供その他の協力等)

第7条 検討会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認められるときは、関係部局その他の者に対し、資料の提供、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第8条 検討会の庶務は、健康福祉部健康増進課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、会長が検討会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成26年12月5日から施行する。

(会議の招集に関する特例)

2 この要綱の施行の日以後最初に開催される検討会の会議は、第6条の規定にかかわらず、市長が招集するものとする。

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

(敬称略)

分野	氏名	所属・職名	備考
地域保健・医療	高崎 元宏	高知市医師会 副会長	
	田岡 太郎	高知市歯科医師会 専務理事	
	沼田 和治	高知市歯科医師会 理事	
	植田 隆	高知市薬剤師会 会長	
	大野 由香	高知県歯科衛生士会 会長	
社会福祉	水口 智裕	高知市民営保育所協議会園長会会長 (五台山保育園長)	
労働衛生	松平 友香子	全国健康保険協会高知支部 保健グループ スタッフ	新任
教育	松岡 マミ	高知市立小中義務教育特別支援学校長会 (高知市立一宮小学校長)	
	和食 沙紀	高知学園短期大学歯科衛生学科 講師	新任
団体	松本 憲誠	高知市小中学校 PTA 連合会 理事	

■ 高知市口腔保健検討会 事務局・関係課名簿

令和6年度

【事務局】

所属	職名	氏名
高知市健康福祉部保健所	保健所長	豊田 誠
	健康増進課長	小藤 吉彦
	健康増進課長補佐	中石 良子
	健康増進課管理主幹（歯科医師）	上田 佳奈*
	健康増進課主任（歯科衛生士）	大中 智美*
	健康増進課口腔保健支援員（歯科衛生士）	寺田 直美*

*口腔保健支援センター職員

【関係課】

所属	職名
高知市教育委員会	学校教育課
高知市こども未来部	母子保健課
	保育幼稚園課
高知市健康福祉部	保険医療課

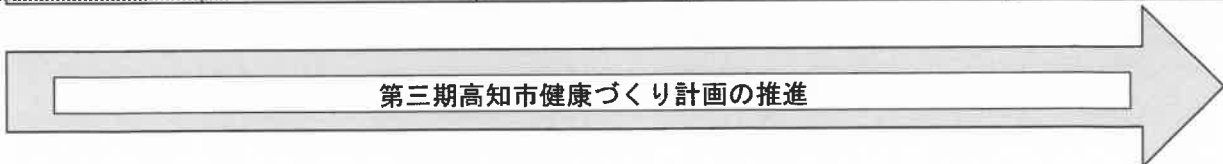
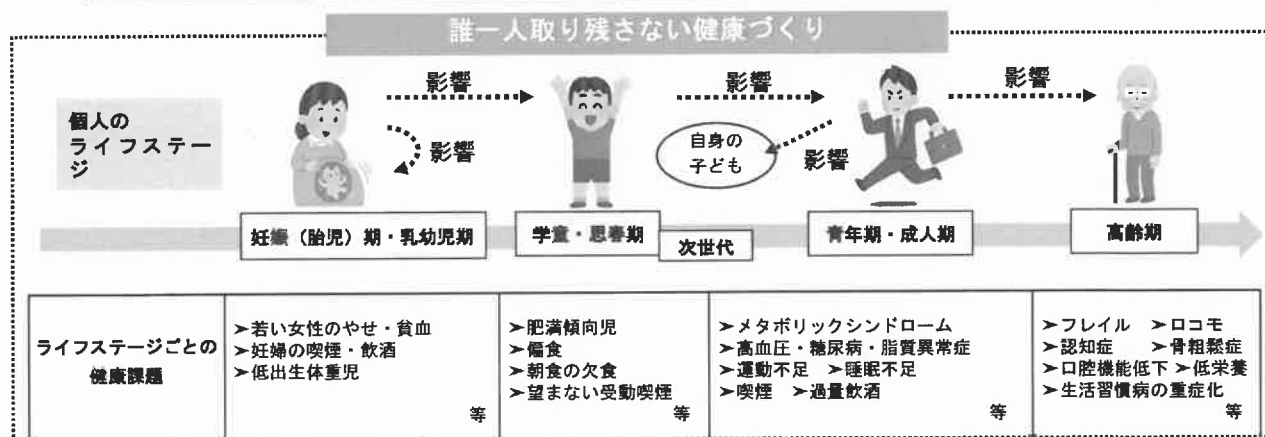
第三期高知市健康づくり計画における 歯科口腔保健の取組について

令和7年2月7日

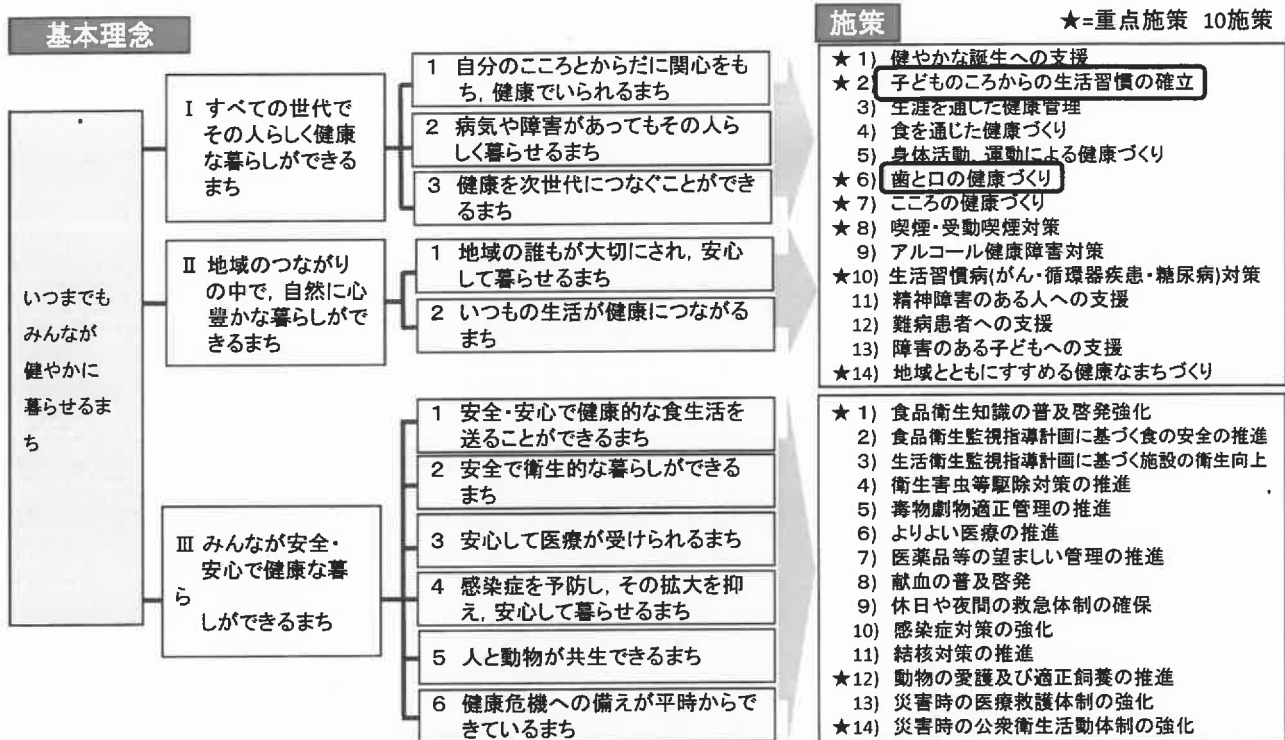
高知市口腔保健支援センター

ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

ライフコースアプローチとは
人の生涯を、胎児期から高齢期に至るまで経時的につなげて考えること



第三期計画の体系図

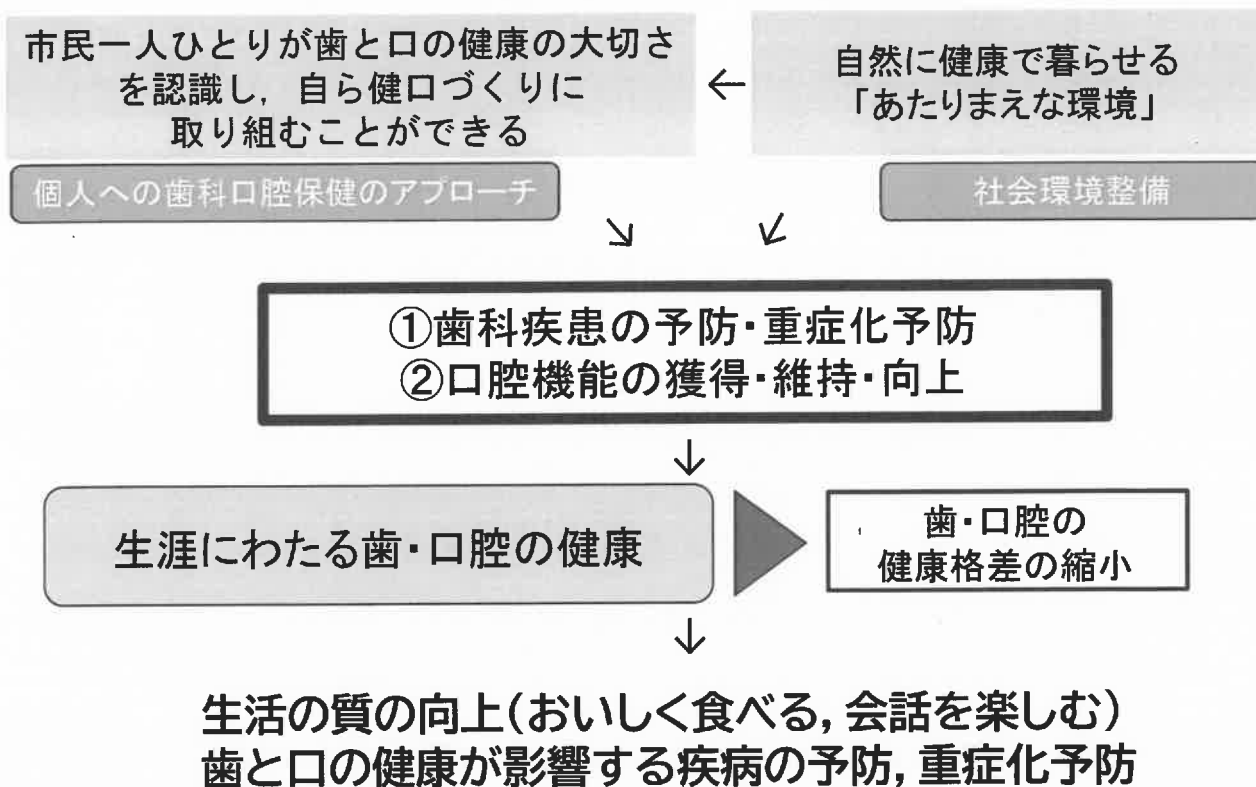


第三期健康づくり計画重点目標

(歯科関連施策抜粋)

施策	指標	現状値(R5)	目標値(R16)
子どもの頃からの生活習慣の確立	むし歯のない子ども(3歳児)の割合	89.7% (R4)	94%
歯と口の健康づくり	1年間に歯科検診を受けた人の割合(20歳～69歳)	55.8%	65%
	50～60歳代で何でもかんで食べることのできる人の割合	77.8%	90%
	歯周病と全身への影響周知度 ・糖尿病 ・早産・低出生体重児出産 ・肺炎	54.6% 34.0% 37.4%	65% 50% 50%

歯と口の健康づくりの方向性



① 歯科疾患の予防・重症化予防

- むし歯予防(フッ化物の活用, 定期的な歯科受診)
3歳児 ⇒ 12歳児 ⇒ 成人
- 歯周病予防
(歯みがき, 口呼吸予防, 定期的な歯科受診)
小中学生の歯肉炎予防
成人期からの重度化予防

歯の喪失防止

②口腔機能の獲得・維持・向上

<乳幼児期から>

- ・乳児期からの口腔機能の獲得
- ・よくかんで食べる
- ・口呼吸 他, 悪習慣の改善

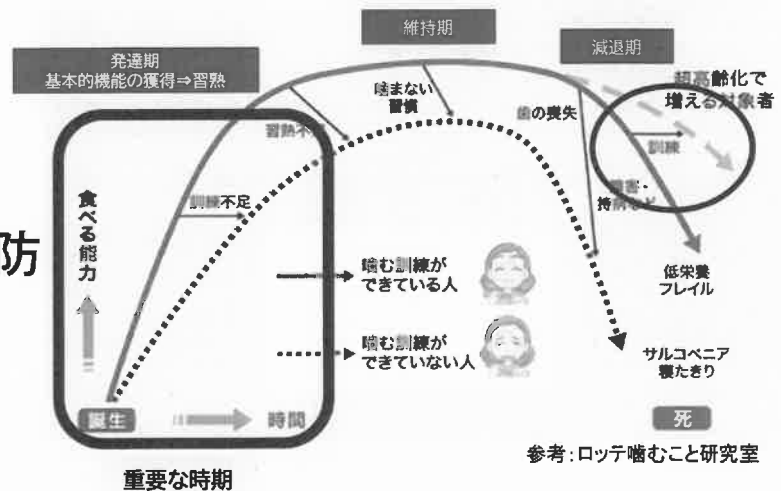
3歳~12歳の子どもの30.7%が“お口ぼかん”



新潟大学大学院 齋藤一誠准教授らの研究グループ
“お口ぼかん”に関する全国大規模疫学調査より

<成人期>

- ・咀嚼良好者の増加
- ・オーラルフレイル予防



【令和6年度実施計画①】

1 口腔保健支援センター機能の充実・強化

<支援の充実>

- ・フッ化物洗口実施に向けての支援, 継続支援
- ・子どもの口腔機能育成のための支援
- ・健康講座等での働く世代, 高齢期の歯と口の健康, 災害時の食と口腔ケアの普及啓発
- ・母子保健, 高齢者, 障害者福祉における歯科に関する相談への助言等

<連携の強化>

- ・関係機関, 関係団体, 関係部局等と連携した社会環境づくり

【令和6年度実施計画②】

2 ライフコースを踏まえた歯と口の健康づくり

＜歯科疾患の予防，重症化予防＞

- ・園や学校でのフッ化物洗口の普及
- ・小学生，中学生における歯肉炎予防
- ・若い世代，働く世代へのむし歯予防，歯周病予防
- ・生活習慣病予防と連携した取組

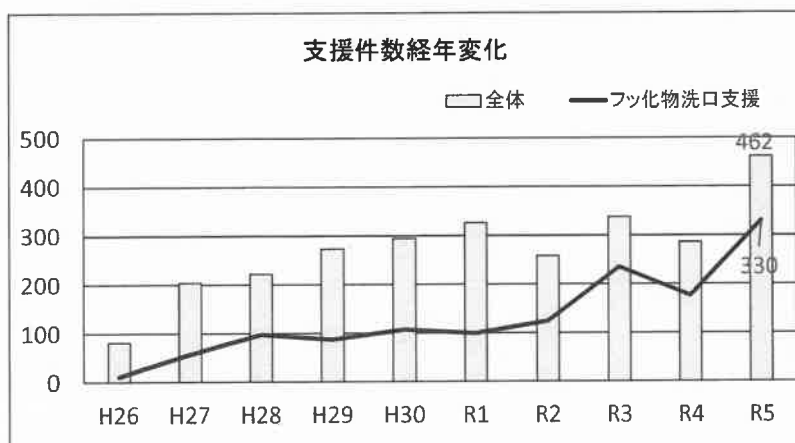
＜口腔機能の獲得・維持・向上＞

- ・園や学校等での口腔機能育成
- ・人材育成（口腔機能育成に関わる方）
- ・生活習慣病予防と併せた成人期からのオーラルフレイル予防対策

【令和6年度の実施状況①】

令和6年12月末現在

1 口腔保健支援センター機能の充実・強化



R6.12未現在

支援件数:310件

(うちフッ化物洗口支援190件)

令和5年度は400件以上の支援を行った。令和6年度も12月末で300件を超えている。

- ・災害時の食と口腔ケアをテーマに出前講座を実施

令和6年度:4件(令和5年度:0件)

(災害時の食と口腔ケア2件，口腔ケア1件，歯と口の健康講座の中で周知:1件)

【令和6年度の取組状況②】

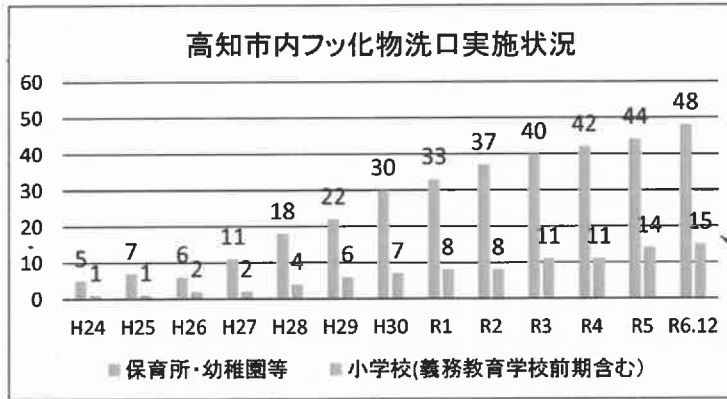
令和6年12月末現在

2 ライフコースを踏まえた歯と口の健康づくり

< 歯科疾患の予防, 重症化予防 >

むし歯予防

・フッ化物洗口は保育所・幼稚園等は4園, 小学校は1校が開始



目標値(R16)

園:90% 小学校:60%

	R5	R6.12
園	38.9%	42.5%
小学校	32.6%	34.9%

市立:14校



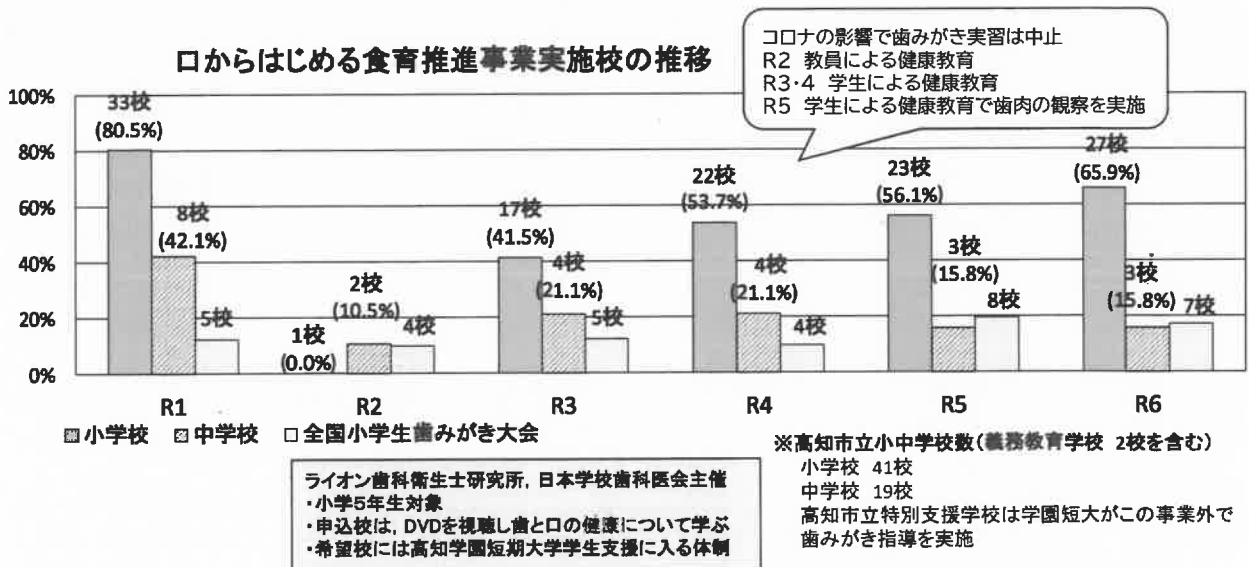
・成人期, 高齢期対象に歯周病予防と併せて歯の根元のむし歯予防について, 出前講座や保健指導等の場で周知



< 歯科疾患の予防, 重症化予防 >

歯肉炎・歯周病予防

・小学校3, 4年生, 中学校1年生を対象に高知学園短期大学学生による歯肉炎予防のための健康教育を実施。令和6年度は歯みがき実習を再開。



・成人歯周病検診の対象に70歳を追加し, 40, 50, 60, 70歳とした。

<口腔機能の獲得・維持・向上>

新・幼児期の食習慣、かむこと、ぶくぶくうがい等についての啓発用チラシを用いた保健指導の実施(1歳6か月児健診受診者)

・食生活改善推進員や保育園の看護師を対象に、子どもの口腔機能の理解促進のための研修を実施

新・口を閉じる力をつけるための「あいうべ体操」を、保育園での実践にむけて、モデル的に年少児(3歳)に3か月間実施(1園:34名)



あいうべ体操を実施することで、唇を閉じる力が強くなり、口元の力が改善

・イベントや健康相談等の機会に口腔機能やかむことの保健指導を実施(歯っぴいスマイルフェア、わくわく健康フェスタ(イオン、フジグラン)、その他量販店等)

新・咀嚼力チェックガム(ロッテ提供)を活用したかむことの普及啓発を実施(歯っぴいスマイルフェア:345名 集団特定健診イオン会場(協会けんぽ等):460名)



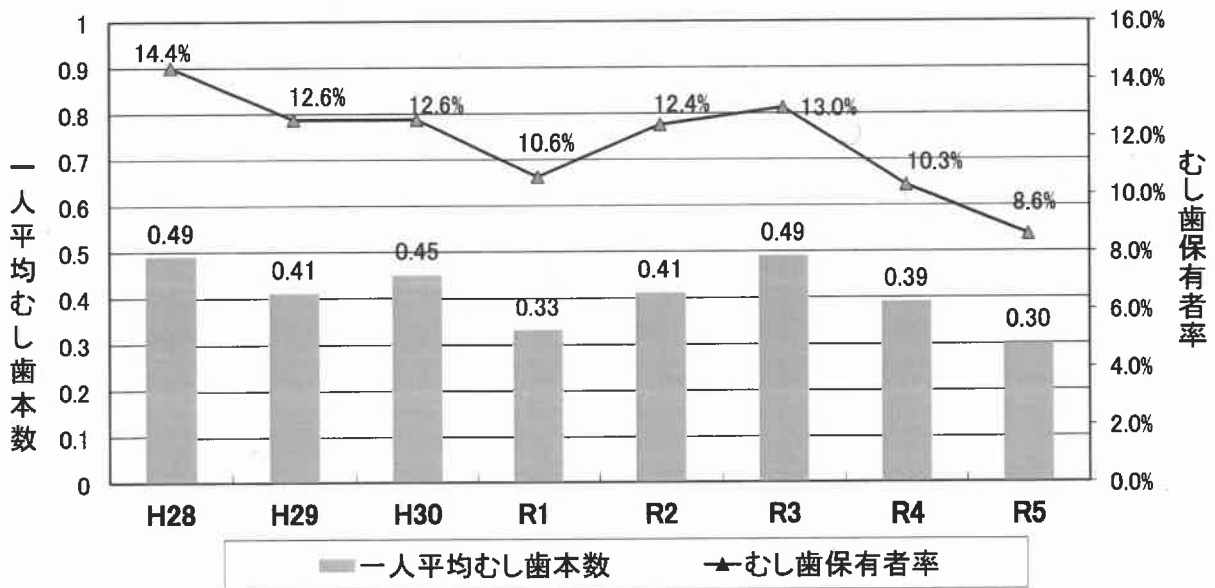
令和6年度の取組評価

- ・フッ化物洗口は、園と小学校合わせて5施設開始し、実施施設数が増加している。
- ・小中学生の歯肉炎予防の取組は、小学校は実施校数がコロナ前の数に少しずつ近づいている。
- ・子どもの口腔機能育成のために、1園でモデル的にあいうべ体操を実施し、次年度以降他園に広げていくための基盤ができた。
- ・オーラルフレイル予防については、介護予防事業とも連携し、いきいき百歳体操の会場や、出前講座等で高齢者に広く周知することができている。集団特定健診での保健指導では、60代前後の方に働きかけができた。
- ・若い世代に歯科疾患予防や口腔機能について周知する機会が少なかった。
- ・災害時の口腔ケアについて出前講座を行っており、令和5年度は0件だったが、令和6年度は4件実施した。

高知市の現状

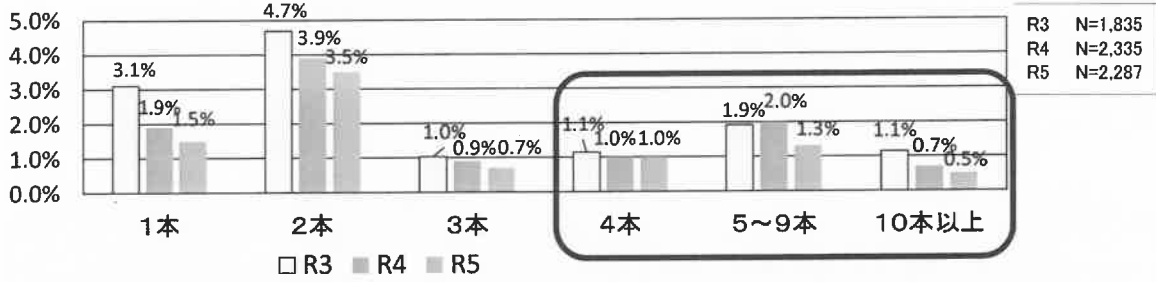
歯科疾患の予防(むし歯の予防)

3歳児歯科健診結果(経年変化) (むし歯保有者率, 一人平均むし歯本数)



むし歯保有者率, 一人平均むし歯本数ともに減少している。

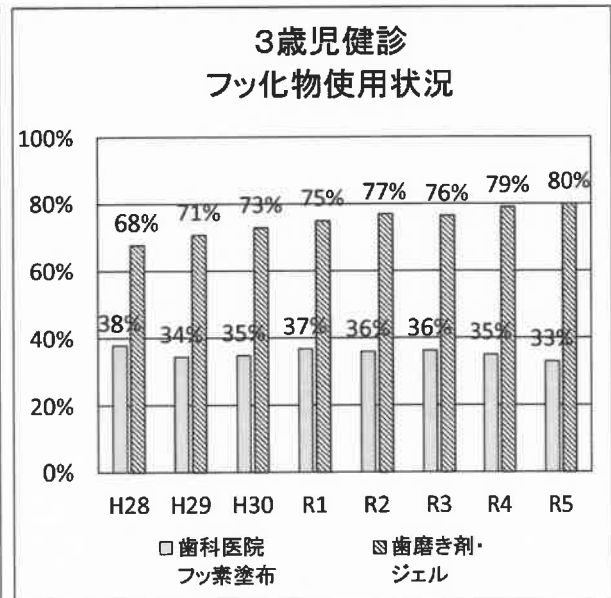
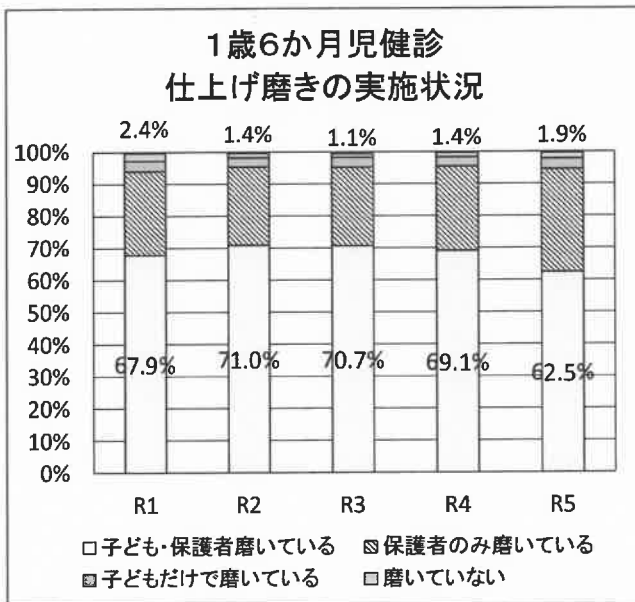
3歳児歯科健診結果(経年変化) むし歯本数ごとの割合



	むし歯のないものの割合	むし歯が4本以上あるものの割合	
R1	89.4%	3.1%	参考:国(R1)3.5%
R2	87.6%	3.8%	
R3	87.0%	4.2%	
R4	89.7%	3.7%	
R5	91.4%	2.8% (65人)	

むし歯4本以上の割合は、2.8%で減少している。むし歯のないものの割合も増加し90%以上だった。

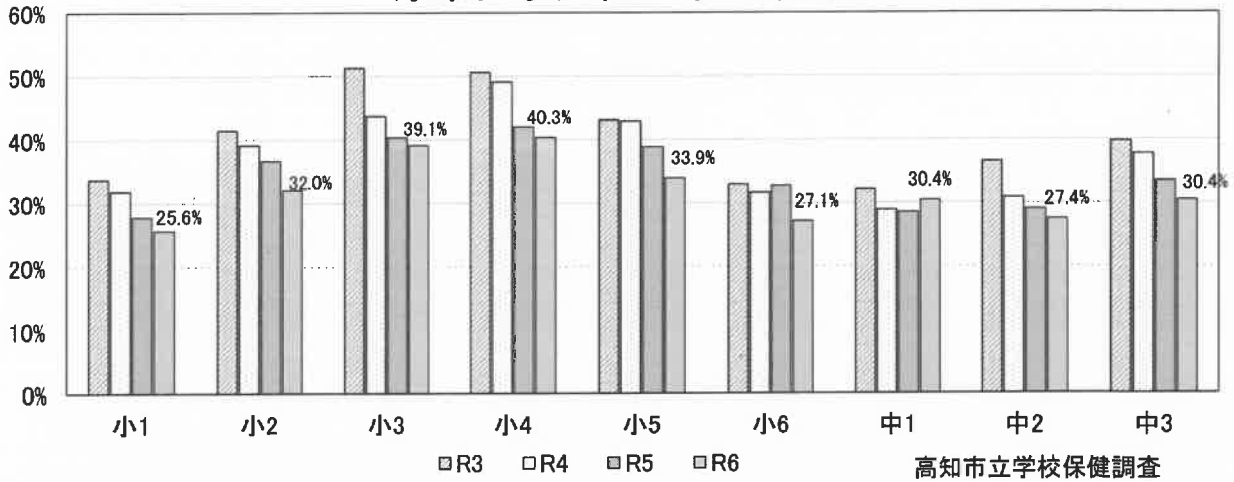
1歳6か月児, 3歳児健診問診結果(経年変化)



子ども、保護者が磨いている割合が少ない。

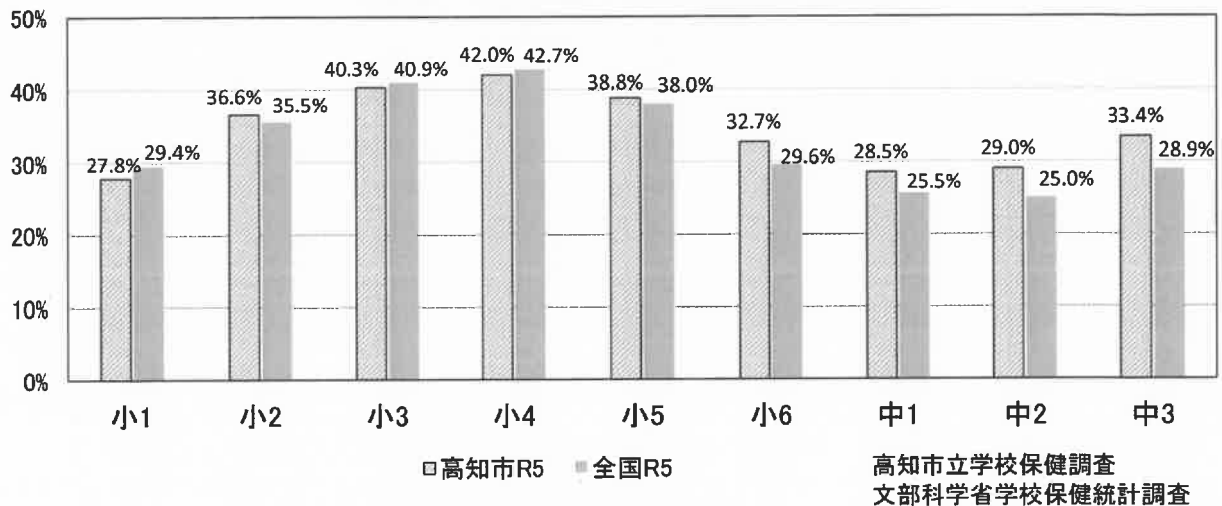
歯みがき剤・ジェルを使用しているものの割合は80%だった。

学校歯科健康診断の結果 高知市立学校のむし歯のあるものの割合 (乳歯・永久歯)(経年変化)



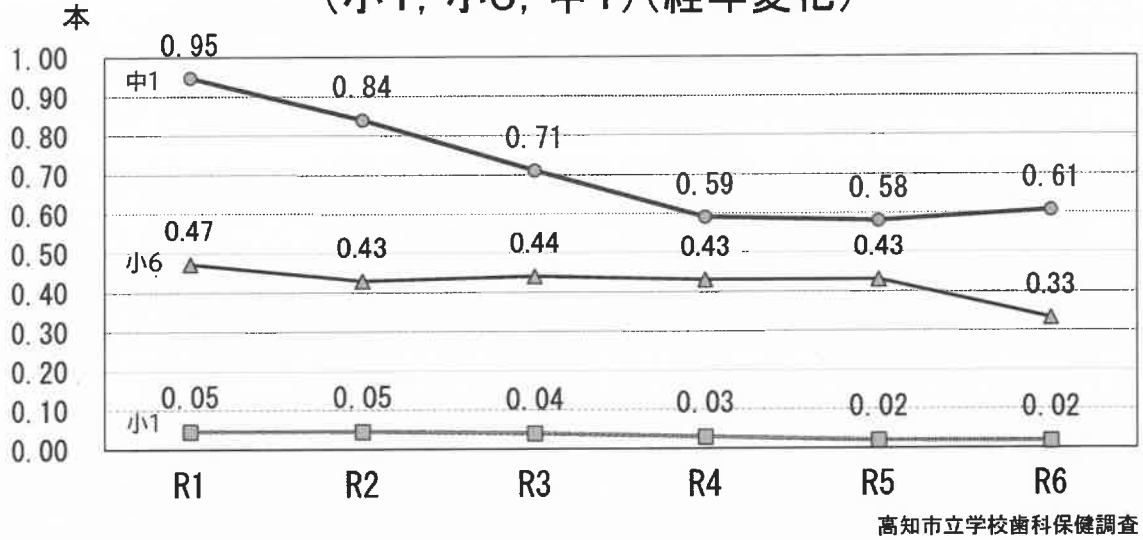
令和6年は、中学1年生(12歳児)のみ増加している。

学校歯科健康診断の結果 高知市立学校のむし歯のあるものの割合 (乳歯・永久歯)(全国との比較)



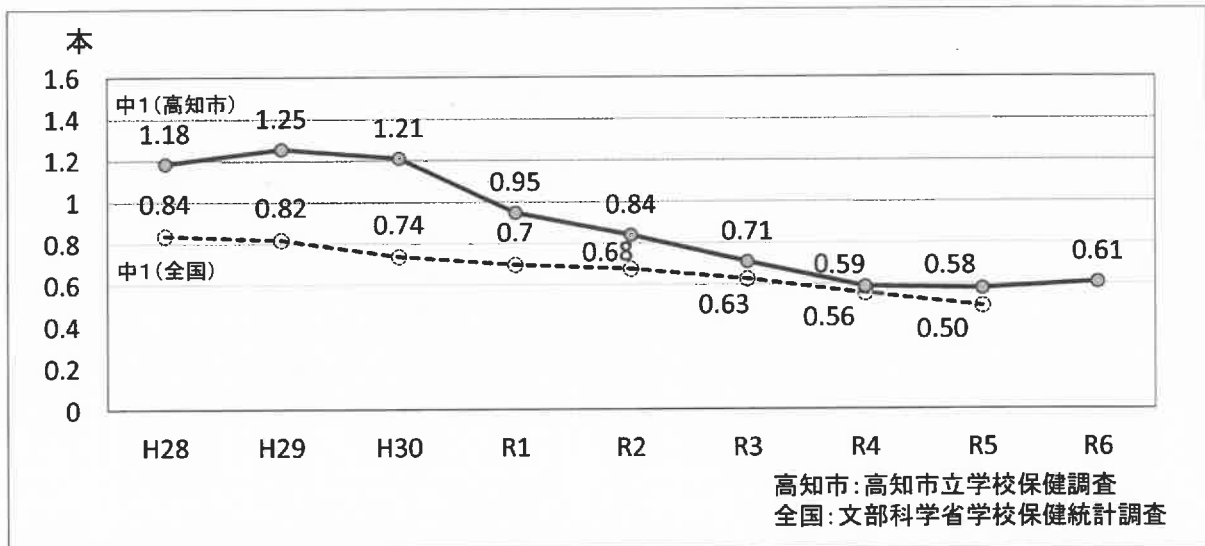
全国と比較すると、小学1年生、3年生、4年生は高知市が少ない。
(全国の直近値と高知市の同年度の比較)

学校歯科健康診断の結果 高知市立学校の一人平均永久歯むし歯本数 (小1, 小6, 中1)(経年変化)



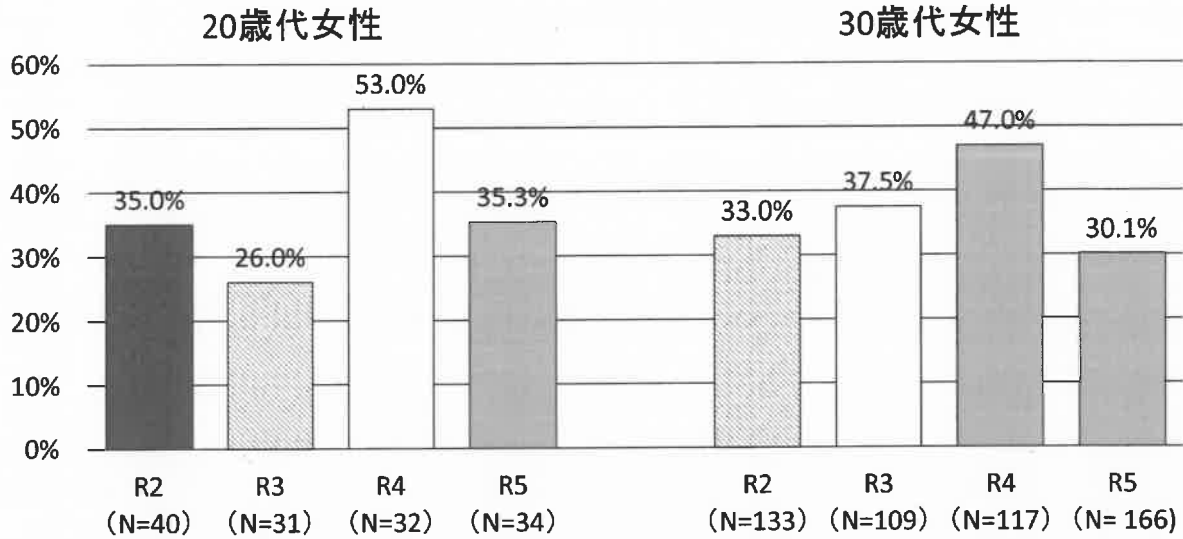
令和6年は、小学6年生が減少している。
中学1年生(12歳児)は年々減少していたがやや増加した。

学校歯科健康診断の結果 中1 一人平均永久歯むし歯本数 (経年変化)(全国との比較)



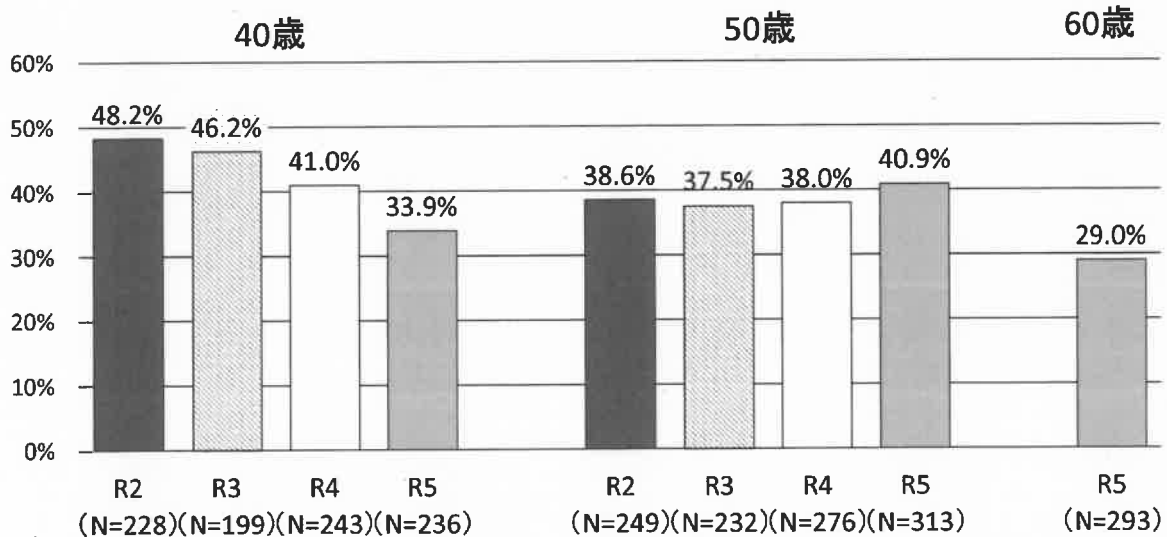
中学1年生(12歳児)は、全国と比較するとまだまだ多く、令和6年は増加している。

女性健診 歯科健診結果 未処置歯を有する人の割合(経年変化)



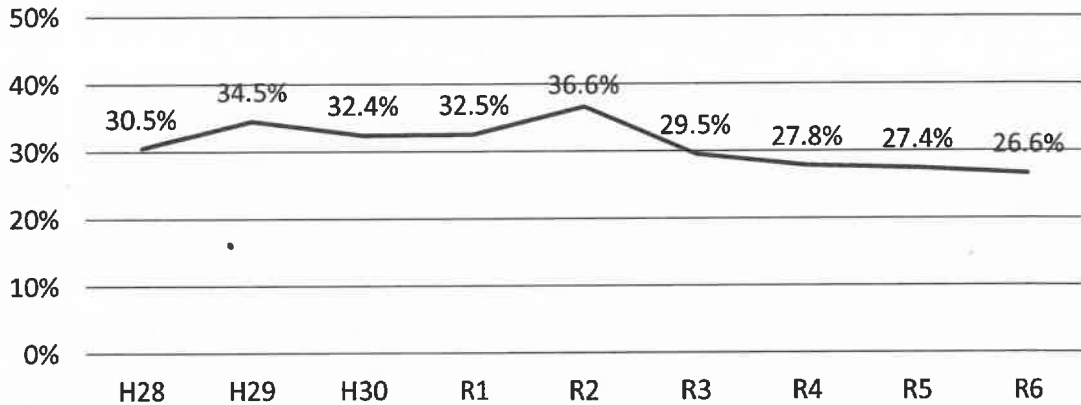
未処置歯を有する人の割合は、20歳代、30歳代ともに令和4年度より減少している。

成人歯周病検診結果 未処置歯を有する人の割合(経年変化)



未処置歯を有する人の割合は、40歳は減少している。
(令和5年度より60歳を対象年齢に追加)

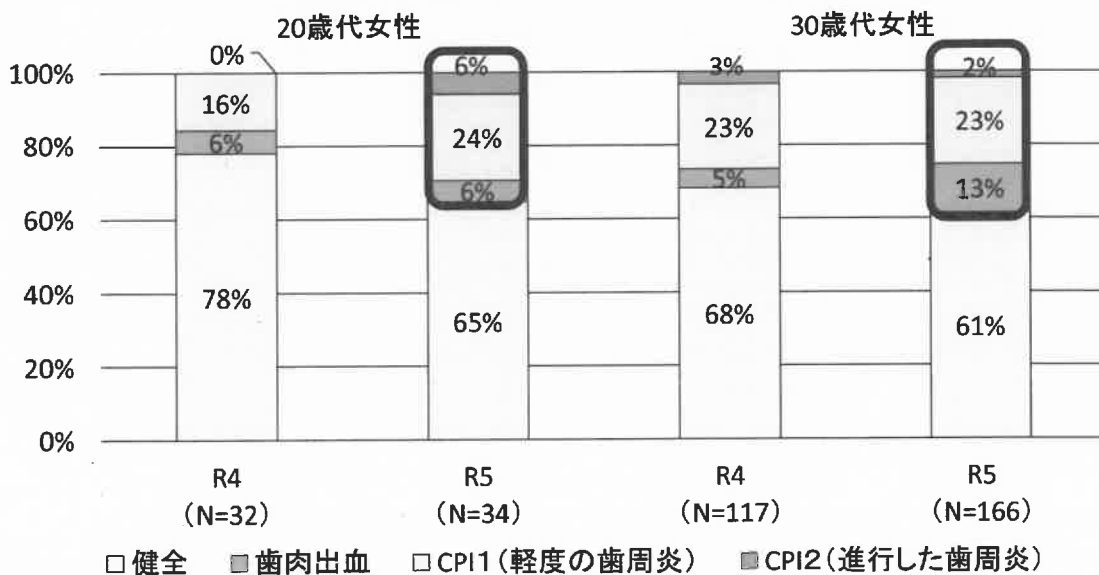
学校歯科健康診断の結果 歯肉に炎症所見(G,GO)のあるものの割合 (中学生)(経年変化)



高知市立学校保健調査

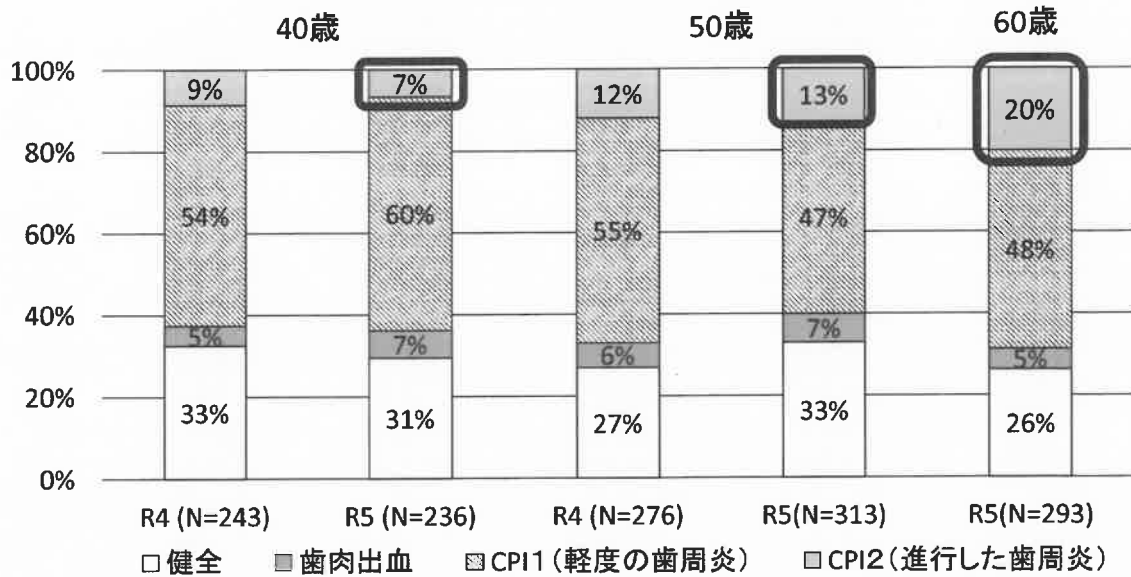
中学生の歯肉に炎症所見のあるものの割合は令和2年をピークに減少してきている。

女性健診 歯科健診結果 歯肉の状況(20歳~39歳)



令和4年度より、20歳代、30歳代ともに歯肉に炎症所見のある人の割合が増加している。

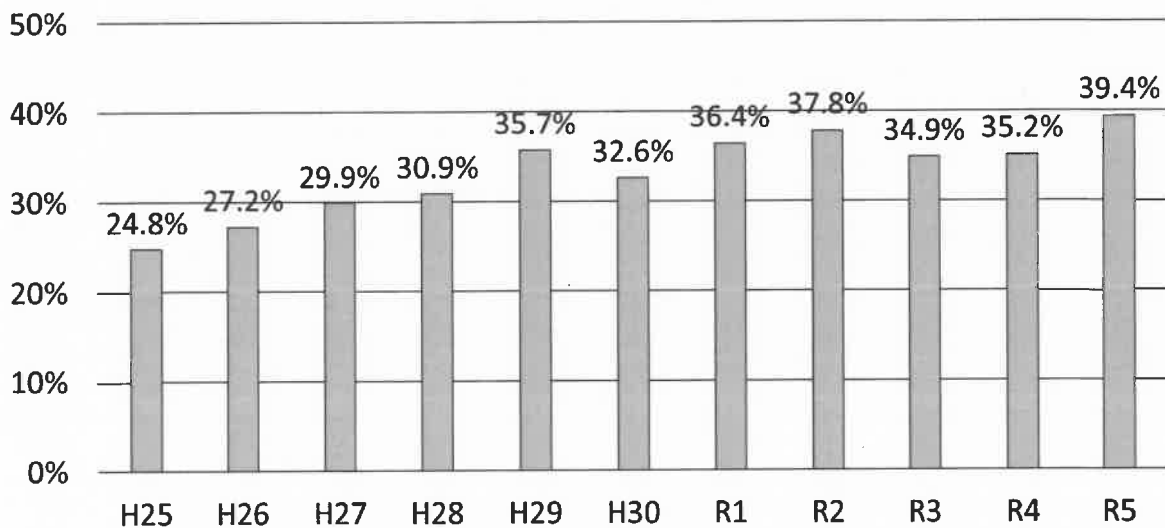
成人歯周病検診結果 歯肉の状況(40歳, 50歳, 60歳)



進行した歯周炎 (CPI 2) を有する人の割合は、40歳 7%、50歳 13%、60歳 20%だった。

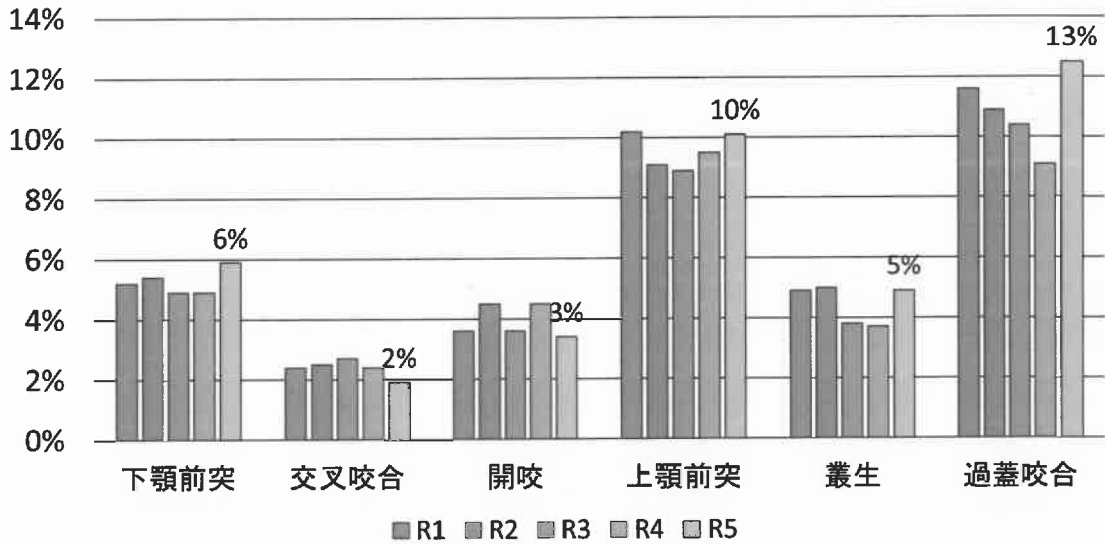
生活の質の向上に向けた口腔機能の獲得, 維持, 向上

3歳児歯科健診結果 経年変化 (不正咬合所見あり)



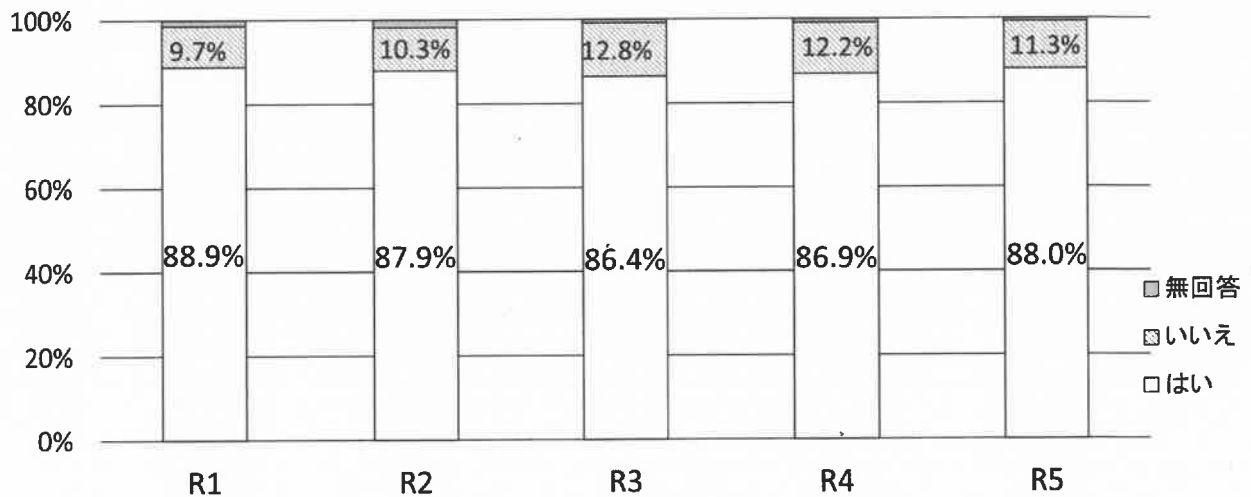
不正咬合所見ありのものの割合は増加しており、約40%だった。

3歳児歯科健診結果 経年変化 (不正咬合内訳)



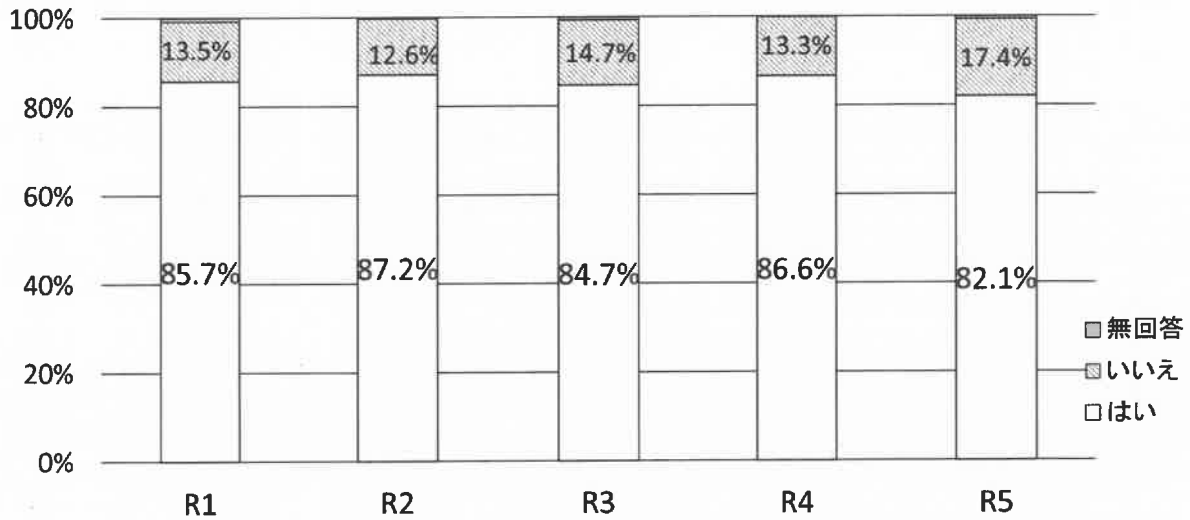
過蓋咬合は増減はあるが、令和5年度は一番多い。ついで上顎前突が多い。

3歳児健診問診結果 経年変化 奥歯でよくかんでいるものの割合



奥歯でよくかんでいるものの割合はあまり変化がない。

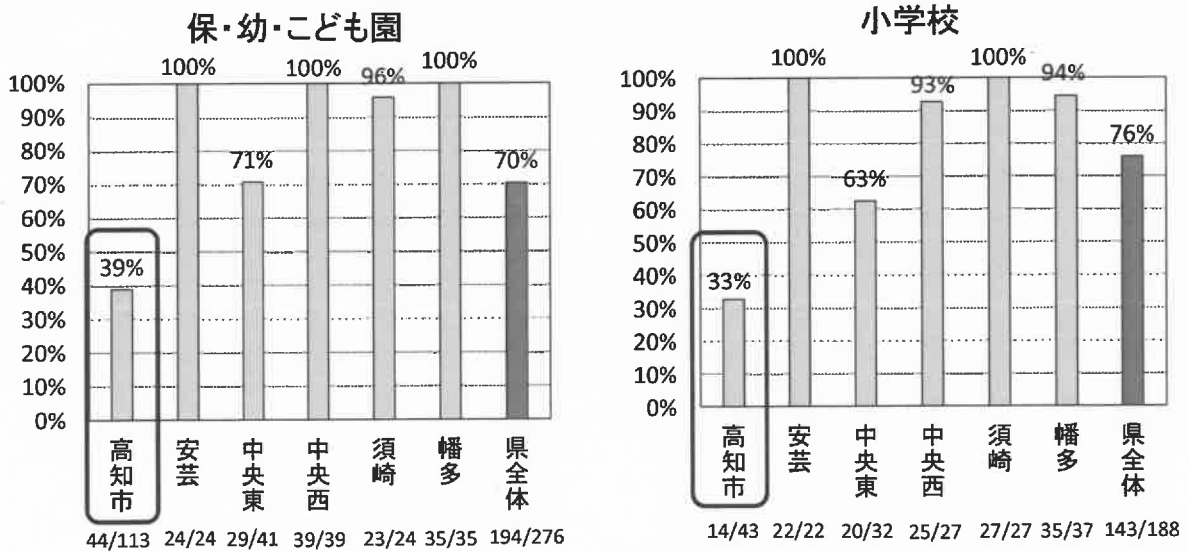
3歳児健診問診結果 経年変化 ぶくぶくうがいをしているものの割合



ぶくぶくうがいをしているものの割合が減少している。

歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

令和5年度フッ化物洗口実施率(令和6年3月末現在) 【圏域別(私立, 国立, 県立含む)】



令5年度フッ化物洗口実施状況調査(高知県)

フッ化物洗口実施施設の割合は、他圏域と比較すると少ない。

令和7年度の方角性

新

①フッ化物洗口実施施設数増加と併せて、口腔機能育成のために園でのあいうべ体操の取組を開始する。
(ぶくぶくうがいができない児が増えている)

新

②働く世代への取組として、成人保健と連携し、企業への働きかけを実施する。

拡充

③成人歯周病検診の対象年齢に、20歳、30歳を追加する。
(対象が20歳、30歳、40歳、50歳、60歳、70歳になる予定)

④災害時の口腔ケアの必要性についてあらゆる機会を捉えて周知する。